

高千穂峰・高隅山

毎日新聞旅行

19・20日

高千穂峰 (1,574m)



高千穂峰には1987年3月に登ったことがある。えびの高原から入って、韓国岳などを経てついでに登ったという感じであった。次の日には開聞岳に登ってその日のうちに家へ帰ったと思う。まだパワーにあふれていたころの話だ。

今回は高隅山を主目的にして行ったのであるから、いつもついでにされてしまう山である。しかし前回は本当に余裕で登った感じであったが、今回は火山灰でざらついた道にケッコウ悩まされた。天候は曇りではあったが、遠くに噴煙を上げる桜島と開聞岳を見ることができた。

ツアーリーダーは花岡さん。足首の故障からようやく復帰できたみたいだ。これに九州の山のガイドで昨年の英彦山でもお世話になった緒方さんが付いた。



高隅山 (1,237m)



大隅半島の南部にある山である。正しくは高隅山系と言って山域は広い。その中で一番高い大籠柄岳へ登ったのであるが、こだわり派から言わせれば“それでは高隅山に登ったことにはならないよ”と言われそうだ。

天気予報は最悪。九州南部は雷を伴う雨であった。バスで私の隣にいた人は早々と“今日はやめた！”とパスを決め込んでしまった。雷こそなかったが、歩き始めは雨具のフードの上にバシャバシャという音さえ聞こえる雨の中であった。登山道は雨水が川と間違えて流れまくる。道がめくれ上がったところが何か所かある。花岡さんの説明では、イノシシがミミズを求めて掘り返した後であるという。標高差が 600m 程度であるので、緩い登りをタラタラ歩けば頂上に着くのかと思っていたら、ケッコウきつい登りの部分もある。これに雨でドロドロにされた火山灰が歩くことを邪魔する。雨のほうは頂上に着くころには止んだので良かった。登りもさることながら、降りに入るとさらに神経を歩くことに集中しなければならない。こんなところで滑って転んだら目も当てられない。写真のほうもここに載せた 1 枚撮ったのみで、あとは全く余裕もなかった。帰ってから雨具と登山靴を洗ったら火山灰で真っ黒になっていて、洗い落とすのに大変な思いをした。

最後に桜島に行ったが、湯の平展望台までしか行けず、桜島山はとても登山記録に載せることはできない。

高隅山での午前中の低気圧が午後は東京あたりに移動したみたいで、“飛行機は名古屋または大阪に行く可能性があります”という条件付きで飛行機に乗ったが、まあ何とか羽田に着くことができた。